

会議録（要点記録）

会議名称	令和3年度第1回小金井市精神保健福祉連絡協議会		
開催日時	令和3年7月21日（水）14:00～15:40		
開催場所	本庁舎3階 第一会議室		
出席者等	小高会長、牧野副会長、橋本委員、中村委員、坂上委員、執行委員、鈴木委員、佐々木委員、五味渕委員、杉山委員、藤原委員、中谷委員 （欠席：小椋委員） 事務局：自立生活支援課長、相談支援係長、相談支援係主査		
傍聴の可否	可	傍聴者数	2人
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状の交付 3 委員及び事務局職員の紹介 4 正副会長の互選 5 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 会議録の作成方法について (2) 協議会の進め方について (3) 令和3年度の目標設定について (4) アンケート調査の実施について (5) その他 6 次回の開催日について 7 閉会 		
会議結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状の交付 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市長欠席のため、机上配布にて交付 3 委員及び事務局職員の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各委員より名簿順に自己紹介 ・ 事務局職員より自己紹介 4 正副会長の互選 <ul style="list-style-type: none"> ・ 推薦により小高委員を会長に選任 ・ 推薦により牧野委員を副会長に選任 5 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 会議録の作成方法について <ul style="list-style-type: none"> ・ 要点記録に決定 (2) 協議会の進め方について <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度ごとに長期入院者等の地域移行者数について目標を設定 ・ 目標に沿った移行支援の事例や各委員が抱える困難事例等についての検討を通じて地域の課題を共有 ・ 課題解決のために何が必要かということを協議 		

- ・ 具体的な協議事項は、要綱第2条のとおり
- ・ 開催頻度は年3回。第1回で目標設定、第2回で進捗状況の確認、第3回で目標に対する評価
- ・ 事業所からの情報提供や困難事例の共有を行う既存の協議体を部会として継続

(3) 令和3年度の目標設定について

- ・ 第6期小金井市障害福祉計画を踏まえ、精神障害による長期入院者の地域移行支援の利用者数2人を目標

【質疑応答】

- ・ 長期とは何年以上のことか。
 - 1年以上を対象
- ・ 地域移行の目的とは、家に帰すことか。グループホーム等も含むのか。
 - グループホーム等も含め、地域に戻った数をカウント
- ・ これまでの実績はどうか。
 - 令和2年度は2人
- ・ 令和3年度とはいつからいつまでか。
 - 会計年度(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)
- ・ コロナの影響はどうか。
 - 病院での面会等が制限されており該当者と直接会うことが困難
- ・ 令和2年度の2人を継続して支援するということか。新たに2人ということか。
 - 新たに2人

(4) アンケート調査の実施について

- ・ 小金井市における令和元年6月30日現在の1年以上の入院者数は143人。うち72人は市内医療機関、残りの71人は26地域の医療機関に入院
- ・ どの医療機関に入院している誰を対象とするかの参考としてアンケートを実施
- ・ 大まかな対象者の状況や医療機関における協力の可否を確認するため、資料5-1を第1弾として実施
- ・ 対象者個別の状況及び意向等を把握するため、資料5-2を第2弾として実施
- ・ 全医療機関ではなく、対象範囲を絞って実施

【質疑応答】

- ・ 対象は小金井市に住民票がある者か。
 - 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの利用を想定しているため、入院前に小金井市に居住の実態があった者を対象

- ・ 小金井市以外の地域に移行してもよいのか。
 - 入所施設の場合は、小金井市が支給決定して他市の施設を利用することは想定されるが、居宅サービスの場合は、市内に住んでいただくことが必要
- ・ 市内に利用できるグループホームがなく、近隣市のグループホームを利用した場合でも、目標値としてカウントできるのか。
 - 地域移行支援の利用者数としてはカウントされるが、それをもって目標を達成したかどうかの判断は評価の際に検討が必要。市内における社会資源として、今後の課題
- ・ 市内医療機関もアンケートの対象か。
 - 対象
- ・ コロナ等他の疾患で転院して戻ってきた場合など、入院期間の算定はどのようになるのか。
 - 退院ではなく、精神疾患が治らないまま転院して戻ったのであれば通算
- ・ その点を考慮するとアンケート項目の「入院日」という記載は工夫が必要だと思う。
- ・ 回答にあたっては、ケースワーカー等が代筆をしてもよいか。
 - ご本人の意思を反映させた形の支援であれば可
- ・ 退院が目的ではなく地域で安心して暮らすことが目的なので、地域に出た後に何をしたいかが分かるような質問項目があるとよいと思う。
- ・ 小さい文字や長い文章は理解してもらえない。
 - 字の大きさやルビ、色紙やイラストなど親しみやすい工夫が必要
- ・ 手帳を持っているということを書きたがらない人が多い。
 - 最後に持ってくるなど、順番をかえてみるのはどうか。
- ・ 何をしたいかを聞き取る中で、不安なことがわかり、それに対して支援するというアプローチをすると成功率が高い。
- ・ 患者にとっては看護師等を上の存在に感じているので、代筆すると誘導されてしまう可能性もある。
 - 回答が困難な場合もあり、バランスが重要
- ・ 地域生活という言葉自体が対象者には分かりづらいと思う。例えば、「生活の場」とかはどうかと思う。
- ・ 医療機関名が記入されていない場合でも、どの地域からの回答なのかがわかるほうがよいと思う。
 - 市内と市外で紙の色を変えるなどの工夫をしてもよい。
- ・ アンケートは継続して実施する予定か。
 - 実施後しばらくは情報として活用したい一方、あまり経過すると古くなってしまいうので、3年に1度くらい調査したい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象範囲はどのくらいを考えているのか。 → 対象者の数と動く範囲を考慮すると多摩地域くらいが妥当 ・ 医療5-1の個々の患者の情報については、入院者数の多い医療機関にとっては負担が大きいと思う。入院者数が多い医療機関だけでも、まとめて記入できるような項目にできないか。 → まとまった人数がいるのは市内の医療機関だけだと思う。青梅市は人数が多い一方で病院数も多い。 ・ 入院期間で区切るとか、年齢構成や疾患名で項目をまとめるのはどうか。 → 他市の事例では、入院期間で区切った項目を設けた上で、可能であればという形で個々の情報を書いている。今回は、個々情報があれば、まとまった部分はあとで集計できるということで省略したが、ご意見を踏まえ、その事例のようにすることもできる。 ・ 市内の医療機関の負担が大きいのかと思う一方、市内の情報というのが議論をする上で肝になるのかなという思いもある。 ・ 牧野副会長及び坂上委員におかれては、ご自身の医療機関の長期入院者の状況について確認をお願いしたい。 ・ 9月に開催予定の部会で検討したいので、8月中にご意見を寄せていただきたい。検討の結果を皆さんにお伝えした後に、11月の協議会で改めて検討したい。 <p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>6 次回の開催日について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月に開催予定 ・ 事務局で候補日を複数提示し、参加可能な委員が一番多い日に開催 <p>7 閉会</p>
提出資料	<p>資料1 小金井市精神保健福祉連絡協議会委員名簿</p> <p>資料2 小金井市精神保健福祉連絡協議会設置要綱</p> <p>資料3 第6期小金井市障害福祉計画</p> <p>資料4 小金井市における長期入院者数</p> <p>資料5-1 長期入院患者の地域移行対象者の把握について (依頼) (案)</p> <p>資料5-2 地域生活に関するアンケート(案)</p>